



いのしし年

生まれ



うまべ くにお
馬部 邦子さん

昭和22年生まれ

物忘れの予防には、一日8,000歩歩くことが良いようです。車に頼らずウォーキングを頑張りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

(湯川支店管内)



しば やすのり
芝 康則さん

昭和46年生まれ

『人生楽しく』をモットーに本年も頑張りたいたいと思います。

(高城出張所管内)



かぎもと もとお
鍵本 元雄さん

昭和22年生まれ

元気でやっていきたい。

(日高支店管内)



やぶした さとみ
藪下 さとみさん

昭和34年生まれ

今年は昨年よりも、健康第一、笑顔第二で過ごしたいです！

(由良支店管内)



ほりかわ かずよ
堀川 和代さん

昭和10年生まれ

バレーをしたり、グラウンドゴルフをしたり運動をして元気に過ごす。

(美山支店管内)



やまし としふみ
山西 敏文さん

昭和34年生まれ

前を向いて一歩ずつ！

(稲原出張所管内)

「魅力ある力強い農業」と 「豊かな地域」の実現

～組合員とともに農業と地域の未来を拓く～

和歌山県 JA 大会は3年ごとに開催され、本県 JA グループの今後3年間の取り組み方向を確認・決定し、組織内外に表明しています。

JAは今、「農業・農村の危機」「組織・事業・経営の危機」「協同組合の危機」の3つの危機に直面しています。こうした厳しい環境のなか、本県グループでは「持続可能な農業の実現」「豊かでくらしやすい地域社会の実現」「協同組合としての役割発揮」の実現をめざし、今後の3年間に於いて「販売高600億円への挑戦」をはじめとする4つの重点実施事項の着実な実践を通じ、「『魅力ある力強い農業』と『豊かな地域』の実現」に果敢に挑戦し、組合員とともに農業と地域の未来を切り拓きます。

3つの危機を克服し組合員とともに 農業と地域の未来を拓く



「魅力ある力強い農業」と「豊かな地域」の実現

①
販売高
600億円への挑戦

②
組合員のメンバ
ーシップ強化と「地域の
活性化」への貢献

③
農と地域を支える
経営基盤の確立

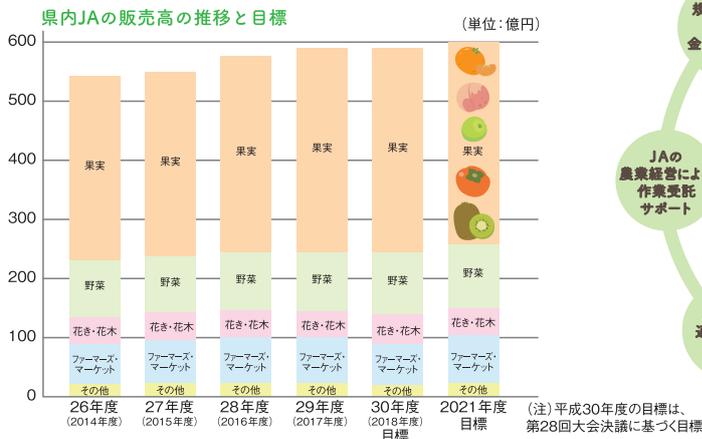
④
本県JAグループの
組織体制の再構築

JAグループ和歌山が 今後3年で取り組むこと

① 販売高600億円への挑戦

◆地域農業ビジョンの策定・実践

JAグループ和歌山農業振興ビジョンの実現に向け、県内JAの販売高600億円を目標に、生産基盤の維持・強化や生産販売戦略の実践などに取り組めます。また、地域の実態を踏まえた地域農業ビジョンを描き組合員と共有するとともに、その実現に向け、地域農業振興計画の策定・実践に取り組めます。



◆持続可能な農業を支える生産基盤の維持・強化

担い手への支援・指導体制の強化、農地の維持と有効活用、労働力の確保など、総合的なサポートに取り組み、生産基盤の維持・強化をはかります。



◆多様化する担い手に対応する 営農指導機能・体制強化

地域農業のコーディネートや営農企画機能の強化、営農指導員の確保や指導員のスキルアップなど、営農指導機能・体制の強化に努めます。

各組合員の農場を訪ね
営農指導を実施



出向く体制

ニーズに基づく品目の提案から
経営指導まで



総合的な営農企画 & 提案

◆JAグループ和歌山生産販売戦略の実践

「変化する消費構造と販売チャネルに対応した流通戦略」の強化に取り組めます。また、マーケティング機能を強化し、売れる商品づくりに取り組むとともに、引き続き『ココ・カラ。和歌山』の効果的な展開をはかります。

多様な
販売チャネルに対応



シンガポールでの農産物販売

マークで安全・安心な
和歌山ブランドをPR



『ココ・カラ。和歌山』

◆生産コスト(トータルコスト)の低減対策

銘柄・規格の集約や物流の効率化、低コスト資材・農機の普及や研究、労力の軽減などにより生産コストの低減対策に努めます。

予約積み上げや
銘柄・規格の集約など



低コスト資材

農機のレンタルで
複合経営・規模拡大を支援



農機レンタル事業

② 組合員のメンバーシップ強化と「地域の活性化」への貢献

◆組合員のメンバーシップ強化

JA が実施する事業の総合的な利用や、JA まつり、女性大学や男性大学など様々な活動への参加を通じ、組合員のメンバーシップ強化をはかります。また、青年部・女性会など組合員組織の拡充・活性化と合わせて、男性大学への参加者のグループ化など、新たな組合員組織の育成をはかるとともに、支所(店)協同活動の全 JA・全支所(店)での展開、支所(店)ふれあい委員会の設置にも取り組みます。

JAなどの取り組み

- 理事などに選任
- 組合員組織代表、支所(店)運営委員、事業別委員などへの就任委嘱
- 総会、総代会への出席・意見陳述の促進



- 組合員組織の活性化
- 支所(店)などの協同活動の活性化
- 複数事業利用の促進
(准組合員は「農業振興の応援団」の取り組み)



- 地域農業と協同組合の理解を深める活動
- 組合員の「声を聴く」「共有する」取り組み



メンバーシップ強化

アクティブ
メンバーシップ

運営参画

理事、組合員組織代表、支所(店)運営委員などとしてJA運営に参画

意思反映

組合員組織、利用者懇談会などを通じて、JA運営に意思反映

組織活動

組合員組織活動、支所(店)協同活動に参加

理念共有

地域農業と協同組合の理念を理解

加入

組合員としてJAIに加入

◆組合員の意思反映・運営参画の強化

組合員の意思反映・運営参画に向け、全戸訪問活動を基本とした「組合員との対話運動」を展開するとともに、正・准組合員の多様な声を運営改善につなげる仕組みを構築します。



◆JAの事業や活動を通じた「農業振興の応援団(サポーター)」の拡大

地域の農産物を「食べて応援」「作って応援」するサポーター、農業応援貯金等の事業を「利用して応援」するサポーターなど「農業振興の応援団」の拡大をはかります。

- ファーマーズマーケットの利用者、「食」のイベント・収穫体験等への参加者など

◆「地域の活性化」への貢献

豊かな地域の実現に向け、地域貢献活動を積極的に展開するとともに、「食」「農」をテーマとした都市との交流活動などを通じ、地域の活性化に貢献します。

地域貢献活動

地域の自然環境を守る



植樹運動

交流活動

収穫体験で地域をPR



都市との交流活動



- ファーマーズマーケットの出荷者、体験農園・農業塾等への参加者など
- 農業応援貯金等の利用者など

③ 農と地域を支える経営基盤の確立

◆中期計画の策定・実践を通じた経営基盤の確立

地域農業の実態や経営環境、将来的なリスク、向こう3か年の収支見通しなどを踏まえ、目標利益を設定のもと、その達成に向けた事業・経営の合理化や経済事業の収支改善などの施策を反映した中期計画を策定し、進捗管理の徹底などPDCAを強化し、着実に実践します。

◆内部管理態勢の強化

会計監査人監査への移行を踏まえ、内部統制の強化に取り組むとともに、新たな監査制度に対応した監事監査、内部監査の充実・強化に取り組みます。また、JAグループ内における新たな自主ルールの設定・運用を通じ、コンプライアンス態勢の確立をはかります。

◆JA経営を支える総合事業の展開

多様な事業を総合的に展開することで、組合員の営農と生活をサポートするとともに、地域農業の振興や地域づくりに努めます。



◆協同組合運動者としての人づくり

組合員の学習活動として全JAで総代学習会を実施するほか、組合員リーダーの育成研修に取り組むとともに、役員研修の充実・強化、職員教育の徹底により、協同組合運動者としての人づくりを進めます。

◆広報活動の強化

「誰に」「何を」「どのように」伝えるのかを「見える化」し、適切な広報媒体の活用などを通じ、情報発信を強化します。また、地域住民・消費者等の「食」「農」「JA」「協同組合」に対する理解促進に向け、県域での統一的な広報の充実・強化に取り組めます。

④ 本県JAグループの組織体制の再構築

◆本県JAグループの組織体制のあり方の研究

●政府による農業・農協改革、農業生産基盤と地域社会の縮小、低金利環境の長期化等による経営収支の悪化など、農業やJAを取り巻く環境が厳しさを増すことが見通されることを踏まえ、盤石な経営基盤のもとで、将来にわたり県内農業の振興や地域の活性化に貢献できる本県JAグループの組織体制のあり方について研究します。

●研究に際しては、中央会・連合会等県域組織の権利義務を承継することができ、最大限のスケールメリットを得ることが可能となる県1JA合併を前提とし、2020年度の早い時期を目途にその適否について一定の結論を得ます。



JAグループ和歌山の自己改革

JAグループ和歌山では、「JAが変わる。農業と地域を変える。」をスローガンに「JA自己改革」を行っています。もっと農業と地域を盛り上げるために。もっとみなさまの暮らしを豊かにするために。私たちにできることを考え、実践していきます。



12月2日、ホテル&リゾート和歌山みなべで『JA紀州女性会5周年記念大感謝祭』を開催し、女性会員319人とJA役職員が出席しました。5周年という節目の年を祝福するとともに、女性会組織の強化や、仲間の絆を再確認しました。

開会にあたり大畑秀美会長は「和歌山県の女性会員目標は11,007(いいおんな)人を目指しています。JA紀州でも少しずつ増えていっています。しかし、今、農協改革などで農業やJA、私達を取り巻く情勢は厳しいものがあり、女性会の魅力ある活動を通じて仲間の輪をさらに広げるとともに、共同活動に積極的に参加参画し、JAの一番の応援団として地域とJAの元気づくりに貢献していきたいと思っています」と挨拶を述べました。

また、女性会活動において、多大なるご尽力をいただいた元本部役員の平井正子さん、赤坂幸子さん、酒井美代子さん、田中正子さん(欠席)に感謝状と記念品を贈りました。

ステージでは、関西を拠点に活動するニューハーフの梶浦梶子さんがショーを披露。11着の衣装を早着替えし、熱唱、面白トークを交えて会場は盛り上がりました。また、ステージから降りて、女性会員の皆さんと握手などをしてふれあい、笑いや感動を届けてくれました。

最後には、ビンゴゲームを楽しみました。



挨拶を述べる
大畑会長



平井さん

赤坂さん

酒井さん



梶浦梶子さん

